

授業科目名	比較高等教育論
科目番号	CB25191
単位数	2.0 単位
標準履修年次	2 年次
時間割	春AB秋AB 木4
担当教員	田中 正弘
授業概要	学生間の活発な議論を通して日本の大学の課題を発見し、その課題の解決のために他国の制度をモデルとした改革案の作成を試みる。
備考	対面
授業方法	講義
学位プログラム・コンピテンスとの関係	教育学の基礎的体系的知識、教育学的実践力、教育学に関する先導的発信力 学位授与の方針(2)「教育に対する幅広い学識を修得し、体系的な見方・考え方が出来る」、(4)「教育学の理論と実践に関して、大学院に進学できる水準の基礎的研究能力を備えている」、(5)「教育に関する諸問題のとらえ方、その解決に向けた方途等を日本及び世界に発信できる能力」
授業の到達目標（学修成果）	日本の大学の課題を比較の観点から説明できる。 教育研究活動の向上に資する改革を、他国の大学をモデルに提案できる。
授業計画	日本の大学は、ユニバーサル化やグローバル化などの環境変化、公的補助金の削減や学生定員割れなどによる財政難、教育研究の高度化や地域貢献の推進などの社会的な要求、ステークホルダー（政府、保護者、学生など）への説明責任の強化など、いくつかの困難な状況に直面しています。春学期では、具体的に大学にどのような課題があるのかを、『EduA』（朝日新聞）などの記事や他国と比較した書籍などを参考に議論します。秋学期では、イギリスなど諸外国の大学との比較の観点から、日本の大学の改革案を提示する報告書の作成に取り組みます。 第1回 大学改革の時代(イントロダクション) 第2回 日本の大学の課題(1)「大学入試」(https://www.asahi.com/edua/article/14338713 , https://www.asahi.com/edua/article/14715129) 第3回 日本の大学の課題(2)「理系5割」(https://www.asahi.com/edua/article/14786020 , https://www.asahi.com/edua/article/14742831) 第4回 日本の大学の課題(3)「休学」(https://www.asahi.com/edua/article/14685449 , https://www.asahi.com/edua/article/14747496) 第5回 日本の大学の課題(4)「ポストコロナ」(https://www.asahi.com/edua/article/14520959 , https://www.asahi.com/edua/article/14382665) 第6回 日本の大学の課題(5)「大学教育とジェンダー」(https://www.asahi.com/edua/article/14566049 , https://www.asahi.com/edua/article/14504431) 第7回 日本の大学の課題(6)「大学改革」(https://www.asahi.com/edua/article/14639194 , https://www.asahi.com/edua/article/14654936) 第8回 進路格差(1)「大学進学の問題」(朝比奈なを(2022)『進路格差 つまずく生徒の困難と支援に向き合う』朝日新書、175-190頁) 第9回 進路格差(2)「大学進学の問題」(朝比奈なを(2022)『進路格差 つまずく生徒の困難と支援に向き合う』朝日新書、191-219頁) 第10回 進路格差(3)「大学進学の問題」(朝比奈なを(2022)『進路格差 つまずく生徒の困難と支援に向き合う』朝日新書、221-240頁) 第11回 筑波大学の教育改革「総合学域群」(https://scs.whowp03.cc.tsukuba.ac.jp/content/uploads/sites/3/2022/07/2022-r4-1.pdf)「総合選抜」(http://souken.shingakunet.com/college_m_jirei/2020/07/7-a027.html)

授業計画	<p>第12回 日本の大学の課題を考えてみる(1)</p> <p>第13回 日本の大学の課題を考えてみる(2)</p> <p>第14回 日本の大学の調査を計画してみる</p> <p>第15回 日本の大学の調査を実施してみる</p> <p>第16回 日本の大学の課題を把握する(1)</p> <p>第17回 日本の大学の課題を把握する(2)</p> <p>第18回 日本の大学の改革案を作成してみる</p> <p>第19回 日本の大学の改革案を発表してみる</p> <p>第20回 日本の大学の改革案をレポートにまとめてみる。</p> <p>日本の大学は、主にドイツやアメリカの大学をモデルに誕生し、そして改革されてきました。しかし同時に、モデルとなる国の文化や歴史を無視した単純な制度の借用は大いなる混乱も招いてきました。我々はなぜこのような失敗を繰り返してきたのかを、学術的に俯瞰できるようになってもらえたらとても嬉しいです。</p>
履修条件	高等教育に関心のある学生であれば誰でも歓迎します。
成績評価方法	最終レポート（50%）、および毎回の授業での準備状況（25%）と発言内容（25%）で判断する。
学修時間の割り当て及び授業外における学修方法	<p>第2回から第11回の授業では指定するテキストを読んできたことを前提に、対話形式の授業を行います。</p> <p>授業は討論中心になりますので、常に疑問を持つ姿勢で授業外学習に励んでください。最終レポート（改善報告書）の執筆は、チームで行うことがあります。</p>
教材・参考文献・配付資料等	1. 朝比奈なを, 『進路格差 つまずく生徒の困難と支援に向き合う』朝日新書
オフィスアワー等（連絡先含む）	質問などは授業の前後に受けます（東京キャンパス勤務のため）。
その他（受講生にのぞむことや受講上の注意点等）	<p>授業中に積極的に発言することを期待いたします。一度も発言しない学生は欠席と同じ扱いになります。</p> <p>作業が多々発生します。受け身の授業を期待している人には向きません。</p> <p>（注）第2回から第10回は、双方向型のオンライン（Zoom）で実施します。</p>
他の授業科目との関連	<p>CB24061 高等教育論</p> <p>CB25192 比較高等教育論演習</p>
ティーチングフェロー（TF）・ティーチングアシスタント（TA）	
キーワード	高等教育、比較教育、大学改革